

令和 4 年度 本原小学校の教育 学校経営ビジョン

【基本理念(使命)】

「わくわくどきどき、学ぶ喜びを感じ、明日を楽しみに来る学校」

【めざす学校像】

- 一人一人の子どもの理解を深め、つながりを大切にする学校
- 子どもが学ぶ喜びを感じ、安心・安全で、あたたかな学校
- 子ども一人一人の学びを保障し、考える力・伝える力の伸長を目指す学校

【めざす子ども像】

- 地域を愛し、自分が好きで、人にやさしく思いやりのある子ども
- 粘り強く考え、自分から進んで取り組む、学習意欲の高い子ども
- 堂々とあいさつや考えを伝えたり、自分に自信を持って取り組んだりできる前向きな子ども

【令和 4 年度の本原小学校の教育】

上田市の教育大綱では、基本理念「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」の基、学校教育の方針を「子どもたちの将来の礎となる『豊かな心と生きる力』を育みます。」と示している。本校ではこれを受け、学校目標「なかよく たくましく かんがえて」を掲げて教育活動全体で取り組んでいく。

「地域を愛す」「心優しい」「自分も相手も大事にする」「健康・安全に気をつける」「学校に生き活きと通う」「意欲的に学ぶ」などの【めざす子どもの姿】を願っての教育活動の中で、重要なのは何といっても毎日の授業である。学力を保障し、人間関係を育むためである。

人の役に立ちたいと思える人になり、人の役に立って生きていくと実感できること、良好な人間関係を築いていくことが大事だと思う。将来、子どもたちが自分の力を発揮して幸せに生きていくために、学校の果たす役割は大きく、学力を保障し、考える力や思いやりを育てることを使命としたい。

学力を保障する授業について、考える。子どもたちが「なぜ?」「どうして?」「わかった!」「できた!」といった学ぶ喜びや達成感を感じる授業をめざしたい。粘り強く考えようとする意欲は、追究する楽しさや解決方法を取得することにつながっていく。そして、受け身ではなく、自分から進んで動き出すものであり、大事にしたい。

成功体験の積み重ねは、自己有用感を高めていく。いずれ成功につながれるという自信が、何度失敗してもあきらめない心の強さを育てていく。チャレンジすることそのものが、価値あるものである。時には、悲しいことや苦しいこともあるだろうが、温かい人間関係の中で、励まされ勇気づけられていく。そこを目指して授業づくりをしていきたい。そして、教師も同様に、授業力・教師力を向上させ、人間関係づくりを大事にすることで、教師集団の力をパワーアップさせていきたい。切磋琢磨し、支え合っていきたい。「チーム本原小」としてみんなで、前に進んでいきたい。

「つながる」を今年度は大事にしていきたい。人と「人・もの・こと」がつながる。そのきっかけとなるものが「あいさつ」ではないだろうか。また、1 時間 1 時間の授業は、必ず既習してきた学習とつながっている。そのつながりがあるからこそ、自分から動き出す意欲へとつながっていく。さらに、つながることを教師が意図的に考えることで、子どもたちは、広げたり、深めたりしていくのではないだろうか。そこを大事にしていきたい。

この 2 年間、コロナ禍で様々な制限を受けて、学校行事や学習活動などが中止となったり、内容が変更となったりしてきた。今年度は、「ウィズコロナ」での対応を考えていく必要がある。通常道理の教育活動にまだまだ戻れるような状況ではないが、本校で取り組んできた「知恵と工夫」を皆で出し合って、感染拡大防止をしながら、できる限りの教育活動を進めていきたい。 よろしく願います。

《学校評価の観点》

○一人一人の子どもを大切にした学級づくり・学校づくり

- ・子ども同士の関係づくり・子どもと教師の開かれた関係づくり
- ・自己肯定感を育む
- ・いじめや不登校がない、わくわくどきどきするような楽しい学校

○重点「つながるあいさつ」「じぶんからうごく」「じっくりかんがえ 伝える」の実践

- ・友達、教師、家族、地域の方へ、気持ちよくなるあいさつをどんどんつなげ、広げていく
- ・受け身の学びではなく、自分から進んで動いていく学び
- ・考える力・伝える力を伸ばす。

○すべての子どもの学びが充実する授業づくり

- ・対話・協働を大切に、喜びのある授業
- ・一人一台端末(タブレット)の活用
- ・思考力・表現力の育成を意識

○様々な教育活動・体験活動を通し、豊かな心の育成

- ・原っ子応援団と協力し、地域と学ぶ「原っ子育成地域カリキュラム」実施
- ・児童会活動、縦割り、地域との交流活動、各行事の体験

○子ども・保護者・地域との信頼関係を深める

- ・学校・学年・学級だより、安心メール、ホームページでの情報発信
- ・連絡帳、電話などで保護者との連絡を密にする。
- ・学校内外の相談体制の周知と受け入れ体制の整備。

《教職員の姿勢》 引き出す 認める 勇気づける やさしく話し、あたたかく聴く

- (1) 子どもの学びや特性を様々な視点から捉え、適切な指導・支援につなげる。
- (2) 子どもの「よさ」や「可能性」を引き出し、伸びる力を一層伸ばす。
- (3) 一人一人の子どもを褒めて認めて育てる。褒める種をまくことを考える。
- (4) その時、その場、子どもたちの意欲的な取り組み、よい姿勢を見逃さない。その場を捉えた「声がけ」、「励まし」、「指導」に心掛ける。よい考えや行い・行為・活動等について、勇気づける。
- (5) 生徒指導4つのポイント「見落とさない、見逃さない、見下さない、見捨てない」を心掛ける。
- (6) 子どもの指導はチームであたる。「報告」・「連絡」・「相談」と素早い適切な対応。
- (7) できない子ども、わからない子ども、間違えた子どもたちへの手厚い指導・支援。
- (8) 人権感覚、道徳心を磨き合う職員集団。体罰、不適切な言動、行き過ぎた指導等の根絶。
- (9) 大切にしたい指導・支援のスタンス 「温かい眼差し 大きな心 穏やかな語りかけ 繰り返しの指導」。

《授業改善に向けて》

- (1) 授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進
 - ① 子どもたちの個性や可能性を肯定的に捉え、それが発揮できる学習展開や支援を授業に位置づける。
 - ② 全ての児童にとって分かりやすい授業、個に寄り添った支援の充実を図る。
- (2) 全ての教室、全ての授業で重点的に取り組む。
 - ① 教室の構造化(掲示物の整理等、学びやすい学習環境づくり)
 - ② ねらいの明確な授業 「なぜ、どうして」「できた、わかった」と感じることのできる授業
 - ③ 学習の流れの提示(板書計画の工夫、マグネットシートの活用等)
 - ④ 追究を支える指導(分かりやすい発問・指示・説明。学習形態の工夫)と振り返り(見とどけ)
 - ⑤ 情報機器・視聴覚機器の効果的な活用
- (3) 共に学び合う 学ぶ力の育成「かんがえるくん」「つたえちゃん」の活用
 - ① 教師主導の授業から、「教師と児童」「児童と児童」の伝え合い、学び合う授業へ。
 - ② 自分との対話、友達、教師との対話、教材との対話の積み重ねを大事に。
- (4) 「はっきり話す」「よく聴く」どの教室でも大切に ←上田市内で統一した指導
- (5) 学年経営の充実 学年(連学年)内の工夫した授業形態、連携。